

授業振り返りアンケートの結果※は教員顕彰にも活用されています！

特別優秀授業賞

※ 今回は令和3年度の授業に対するものです。
 本学の授業において、特に優れた教育能力を発揮した教員に送られる賞です。毎年3名の方が表彰されます。



スポーツ・武道
実践科学系
竹中 健太郎 教授

この度、特別優秀賞をいただきましたが、身に余る評価に恐縮しています。私の専門は剣道ではありますが、昨今は学部や大学院においてスポーツパフォーマンス研究に纏わる授業も担当するようになりました。まだまだ未熟で過不足多き現状にありますが、今後も自身の剣道修練や指導の実践、或いは研究活動を通じて研鑽を積み、授業を通じて学生の皆さんに有益な情報を発信、教示できるよう精進したいと思います。



スポーツ人文・
応用社会科学系
浜田 幸史 准教授

平成29～31年の学習指導要領改訂により、「主体的・対話的で深い学び」という言葉がよく聞かされるようになりました。皆さんなら、どのように説明しますか。今、全国の学校の先生方は、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善を図っています。受講生にとって、私の授業そのものが、そのよきモデルとなれば幸いですし、そうなるための努力と工夫を重ねていきたいです。これからもよろしくお願いします。



スポーツ人文・
応用社会科学系
梶 ちか子 准教授

「体育・保健の授業づくり」を研究テーマとする身として、大学の授業についても「毎回の授業が勝負」と自分で自分にプレッシャーをかけながら、試行錯誤の日々を送っております。今後も、講義・演習・実技、対面・オンライン、どの授業形態においても、学生達が主体的に学習に取り組み、お互いの意見や考えを共有しながら、より学習を深化させることを目指した授業を探究していきたいと思ひます。

講義・演習科目			
青木 竜	教職実践演習(中・高)総合演習A	田巻 弘之	体育学実験Ⅱ-運動生理学-
幾留 沙智	教育相談・カウンセリング論	中村 勇	キャリアデザインⅠ
梶 ちか子	教職実践演習(中・高)保健体育科教育法Ⅰ保健体育科教育法Ⅱ保健体育科教育法Ⅲ保健体育科教育法Ⅳ	中本 浩揮	教職実践演習(中・高)教育相談・カウンセリング論
金高 宏文	キャリアセミナー	濱田 幸二	教職実践演習(中・高)
国重 徹	キャリアセミナー	浜田 幸史	教職実践演習(中・高)国語・文章表現法
栗山 靖弘	教職実践演習(中・高)国語・文章表現法国語・文章表現法総合演習A	藤田 英二	運動処方論
小森 大輔	教職実践演習(中・高)総合演習A	松村 勲	教職実践演習(中・高)総合演習A
坂中 美郷	教職実践演習(中・高)	森 克己	教職実践演習(中・高)国語・文章表現法
隅野美砂輝	スポーツマーケティング論キャリアセミナー	山本 一生	教職実践演習(中・高)
関 朋昭	スポーツマネジメント概論	吉田剛一郎	運動生化学
竹中健太郎	教職実践演習(中・高)	與谷 謙吾	体育学実験Ⅱ 運動生理学解剖生理学

NIFS-AP News

- ◆A.C.E.KANOYAになろう！
- ◆THE 日本大学ランキング
- ◆教員から体育大生へのメッセージ
- ◆教員表彰
- ◆ご挨拶とあとがき

2023.10 vol.13

写真提供：陸上競技部

NIFS NEXT30で目指す「教育・学生支援」

学生のみならず、「NIFS NEXT30」というフレーズを最近目にしたことや耳にしたことはありませんか！？

これは、鹿屋体育大学の2050年を見据えた挑戦的なビジョンを示したもので、2022年10月28日に公表されたものです。そこには、30年後、鹿屋体育大学は「こんな大学になるぞ！」という熱い思いが「教育・学生支援」「研究」「国際化」「社会連携・貢献」の領域毎に示されています(大学HPに掲載されています)。学生諸君に直接関わる「教育・学生支援」の領域では、以下のことが示されています。

- A.C.E. KANOYA【活気ある(Active) 独創的な(Creative) 精鋭(Elites)】の育成**
- ▶スポーツ、武道、体育及び健康づくりの各領域における、先導的かつ即戦力となる人材の育成
 - ▶スポーツ界のオピニオンリーダーの育成
 - ▶国際大会で活躍するアスリート育成

スポーツ・武道や体育・健康づくりのリーダーの基礎的な資質・能力を身につけながらも、学生の個性の優れた部分＝尖った部分を磨いて伸ばして、国内外での中核的・リーダー的人材の輩出を目指すものです。

そのために、本学では授業(正課)の充実を図る一方で、授業外(正課外)における**学生が自らが「挑戦的、主体的、自主的」に取り組む活動**に対する多方面の支援をさらに充実させていきます。例えば、「SHEEP」や「学生挑戦プロジェクト」などです。

また、2023年7月にはそのためのプロモーション・ビデオ(PV)も大学HPで公表されました(下の二次元コード)。PVの中では、色々な場面で活躍・チャレンジしている在学生のみなさんに、将来の「夢」を披露いただいています。

また、在学生と同じような夢を実現された卒業・修了生にも登場いただいています。体育大生の持つ夢が、チャレンジすることで現実のものとなることを少しでも実感いただければと思います。「さー、夢の実現に向け行こう！」

1月末退職のご挨拶(非常勤職員 玉山 由佳)

教育企画・評価室で勤務させていただきました玉山と申します。半年間、業務を通して幅広い大学教育に触れることができ、とても貴重な経験になりました。室長の金高先生をはじめ、室員の先生方、教務課の皆様、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。これからも鹿屋体育大学に関わる皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。

3月末退職のご挨拶(特任研究員 大澤 啓亮)

2022年3月から1年間、教育企画・評価室で勤務させていただきました。業務では教育の質保証に向け、GPAやPROGテストの分析などを担当させていただきました。今までと違った立場から大学の教育に携わせていただき、改めて多くの先生や職員の方々がサポートして下さっていることを実感することができました。室長の金高宏文先生、室員の先生方、教務課の皆さん、1年間ご指導いただき、ありがとうございました。

初めまして！ よろしくお祈りします！

4月より教育企画・評価室に配属となりました事務補佐員の淵田留美と申します。皆さんの学生生活がより良いものとなりますよう、微力ながらお手伝いできたらと思っています。室長の金高先生、教務課の皆さまのもと頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

2023年4月より教育企画・評価室に配属となりました特任研究員の田川浩子と申します。学修成果の可視化を通して、充実した学生生活・競技生活が送れているという実感が持てるよう、僭越ながらサポートできたらと思います。よろしくお願いいたします。

<発行>
鹿屋体育大学 教育企画・評価室
 〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
 大学院棟1階

TEL&FAX: 0994-46-5082
 E-MAIL: kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

<企画・編集>
 金高宏文・田川浩子・淵田留美



忍者パンフレット



プロモーション・ビデオ
二次元コード





スポーツ人文・応用社会科学系

David Elmes 准教授

研究キーワード

TEFL (Teaching English as a Foreign Language),
Intercultural competency,
English communication,
Coach-athlete communication

研究キーワード

TFEL (英語教授法),
異文化コンピテンシー,
英語コミュニケーション,
コーチ・アスリートコミュニケーション

【日本語訳】

学生アスリートから真の大学生へ

トレーニング場から道場へ、練習から試合へ、メンタルなイメージから実際のパフォーマンスへー競技で成功するためには、スキルを一つの場面から別の場面に応用する（そしてまた元の場面に適用する）能力が不可欠です。学生アスリートであるNIFSの学生は、スポーツと学業の両方で成功するチャンスがあります。コーチや先生はみなさんの成長を導いてくれますが、みなさん自身も自分の成長に大きな責任を負っています。

“Practice makes perfect.”（練習が完璧を生む＝継続は力なり）という格言は、人生の多くの場面にも当てはまるように思います。私はアイスホッケーと野球を長年やってきて、一貫した練習が成功のために極めて重要であることを、身をもって学びました。結局、スポーツで勝てるかどうかは、生まれつきの才能だけでなく、練習で必要なスキルを身につける能力によって決まります。高校、大学と進学し、この原理が学業における成功にも当てはまることを学びました。スポーツ選手がコツコツ練習し、技術を向上させるのと同じように、学生も常に勉強して知識を吸収し、定着させなければなりません。

また、スポーツと学業のどちらにおいても、練習の成果は個人の成長にとどまることなく、チームの成功にも繋がります。練習をしっかりと積んだチームがより団結して勝利を収めるように、常に十分勉強してきた学生は、授業でグループによるプロジェクトを行う際に、そうでない学生よりうまく他のメンバーと協力し、よりよい成果を上げることには貢献することができます。結局、グラウンドであれ教室であれ、練習は成功を収めるための重要な要素なのです。

とは言え、長年信じられてきた“Practice makes perfect.”という格言は、完全に正しいとは言えません。現在まで長年教師をし、それ以前は長い間アイスホッケーと野球のコーチをしてきた者として、私は練習の量だけではアスリートが完璧になることを保証することはできず、間違いなく練習の質も等しく重要であることを学びました。近年、この格言をより正確なものにするため、もう一つの“perfect”（完璧な）が追加され、“Perfect practice makes perfect.”（完璧な練習が完璧を生む）という表現が生まれました。今では、この新たな格言は、アスリートや学生が技術を向上させるため、しっかり考え抜いて目的を明確にした練習（=perfect practice）に常に取り組むことの重要性をより一層強調するものとなっています。本当に大切なのは、単なる練習の質ではなく、最終的にアスリートの完璧さの実現に繋がるような練習の質なのです。

学生アスリートのみなさんには、スポーツにおいて成功をもたらしたやる気や努力を、本学の授業に応用する方法を是非学んで欲しいです。と言うのも、グラウンド、体育館、道場、そしてコートで練習をする時にみなさんが持つ真剣さや熱量は、教室で成功を収めるための創造的なアイデアを新たに生み出すための源泉となり得るからです。

（日本語訳：国重徹[国際交流センター長]）

From Athletes to Academics

From the gym to the dojo; from practice to the game; from mental imagery to physical execution... the ability for athletes to transfer their skills from one situation to another (and back again) remains fundamental to their success. As student-athletes at NIFS, you have earned the opportunity to experience success in both athletics and academics. While your coaches and teachers will guide you in your progress, you must assume an important share of the responsibility in your growth.

"Practice makes perfect" is an age-old adage that rings true in many aspects of life. In playing ice hockey and baseball for many years, I learned firsthand that consistent practice is crucial for success. After all, in sports, winning is not only determined by an athlete's natural talent but also by their ability to develop essential skills through practice. As I progressed through high school and university, I learned how this same principle applied to academic success as well. Just as athletes must regularly train to improve their skills, students must consistently study to absorb and retain knowledge.

In both sports and academics, the benefits of practice also extend beyond individual improvement to team success. Just as a well-practiced team can work together more cohesively to achieve victory, students who have studied consistently can collaborate more effectively on group projects and contribute to better class outcomes. Ultimately, whether on the field or in the classroom, practice is a key factor in achieving success.

Nevertheless, the long-held belief that “practice makes perfect” is not entirely accurate. As a teacher and a former hockey and baseball coach for many years, I have learned that, without question, practice alone does not guarantee perfection, as the quality of the practice is of equal importance. Consequently, in recent years, the addition of another ‘perfect’ has created a more accurate expression: “Perfect practice makes perfect.” This refurbished phrasing now better emphasizes the importance of deliberate and focused practice, where athletes and students must actively engage and constantly seek to improve their skills. In essence, it's not just the quality of practice that matters, but the quality of practice that ultimately leads to perfection.

As student-athletes, you must learn how to transfer the determination and efforts which brought you success in sport to your classes at NIFS. The intensity with which you practice on the field, in the gym, in the dojo, or on the court can be your source of inspiration for achieving success in the classroom.

「雷ドーン」

体操競技関係の授業を担当している山下です。みなさんはスポーツの世界で不思議に思ったことや、これまでに受けた指導で納得できないものはありませんでしたか？ここで少し私の経験について触れたいと思います。私は体操競技を5歳で始めました（父が先生をしており、父が怖かったので「やりたくない」と言えるはずもなく）。厳しく指導してもらっていたので、練習がうまくいかない「もうやらなくて良い、帰れ」と言われ、数分立たされた後に謝りにいって練習再開という流れが定番です。とある日、失敗すると、いつものように「帰れ」と言われましたが、どうにも納得がいきませんでした。指導者は「お前は考えてない!」というのですが、私は確かに考えながら練習をしていました。だから、納得が行かず帰ってやることにしました（が、父が指導者なので当然、家には入れない）。このモヤモヤをスッキリと取り払ってくれたのが大学で学んだ「スポーツ運動学」でした。当時の私が「考えている」つもりだったことは「思っている」だけであって「意識している」訳ではないことに気づいたからです。雷が落ちるといいますか、後ろから頭をドーンとされるというか…それくらいの衝撃でした。大学の授業は興味のあるものばかりではないかもしれませんが、要卒単位124に対して約80の授業を受講するとして、80×15回＝1200回のうち、1つは「これだ」という授業があるはず。それを見逃すことのないよう大学に期待して日々を過ごしてください。私も頑張ります。



スポーツ・武道実践科学系

山下 龍一郎 講師

研究キーワード

体操競技,運動学,技,
縁取り分析,コツとカン

THE日本大学ランキング「教育充実度」への回答を！

鹿屋体育大学のプレゼンス（立ち位置）を確認するための一つとして、「Times Higher Education (THE:タイムズ・ハイヤー・エデュケーション)」が発表する大学ランキングにチャレンジすることを企画しています。THEは、「世界大学ランキング」「アジア大学ランキング」「日本大学ランキング」「インパクトランキング」などを番付しています。今回は、2017年度からはじまった「**THE 日本大学ランキング**」に参画し、本学が全国の大学でどのような位置付けにあるのかを確認しようとしています。

THE 日本大学ランキングでは教育環境や学生の学びの質、成長性に注目し、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野16項目を指標として、ランキングを作成しています。2019年からは、アメリカ版、ヨーロッパ版と共通する11の質問項目を設定した「学生調査」を導入しています。教育の受け手である在学生の「声」もランキングに反映されています

（詳しくは、右の二次元コードを参照）。



そこで、まずは大学の「教育力」に焦点化し、本学が全国の大学の中でどのような「教育充実度」を得られているか確認したいと考えています。2023年度は、まず学内での予備調査を実施し、2024年度から本調査に参画する予定です。どのような調査内容で行われているかをご確認いただき（右表参照）、本学の「教育充実度」について改めて確認してみてください。

回答は、以下の二次元コードより回答してください。

THE 日本大学ランキングにおける質問内容（抜粋）

No	質問内容
1	あなたの大学における学習経験の中で、教授陣や先生方と交流する機会はどの程度ありますか。
2	あなたの大学では、共同学習（協働学習）の機会はどの程度ありますか。
3	あなたの大学の指導では、クリティカル・シンキング（注）のスキルの成長が支援される機会がどの程度ありますか。 （注）「本当か」という姿勢で、物事の本質や構造を見抜こうとする思考
4	あなたの大学の指導では、学んだことをじっくり検討したり、学んだことを相互に結び付けたりすることを支援される機会がどの程度ありますか。
5	あなたの大学の指導では、学習内容を実社会に応用されることが支援される機会がどの程度ありますか。
6	あなたがこれまで大学で受講した授業は、あなたにとって挑戦/やりがいのあるものでしたか。
7	あなたの友人や家族が大学に行くことを検討していたら、どの程度あなたの通う大学を勧めますか。あなたの大学での経験をもとに回答してください。
8	あなたの大学では、授業や大学の運営の改善に関して学生が提案する機会がありますか。
⋮	
15	あなたの大学では、社会の変化に対応したカリキュラムになっていると思いますか。
16	あなたの大学では、専攻以外の知識や経験を積み重ねていくことに対する支援がありますか。

THE 日本大学ランキング向けの「教育充実度」の予備調査2023

前述のように本学の「教育充実度」を把握するために、回答は右の二次元コードより回答してください。 **回答締切：2023年10月15日（日）まで**

